日本技術士会　原子力･放射線部会　例会（平成 19 年 11 月 16 日）

「技術者は経験をいかに伝えるか」講演要旨

若者の理科離れが指摘されて久しい。大学の理工系受験者数は、就学年齢減少の割合以上に減少しており、科学技術創造立国を標榜している我が国の国力維持に大きな不安材料となっている。特に重厚長大は敬遠される傾向があり、大学の原子力工学系や電気工学系の学科で教育プログラムの改革の動きが始まっている。

講演者は民間企業で大型理科学機器の開発･建設に携ってきた技術者である。たまたま東京理科大学で始まった研究者･技術者養成プログラムで「研究開発とものづくりの光と陰」とのテーマで講演する機会があり、そこでの話の内容紹介、学生の反応、技術者としての取組み等を講演された。

大学での講演内容としては、下記内容。

① 経験事例として核融合･加速器の研究施設建設におけるトラブルとその克服
② 大型理科学研究施設建設プロジェクトの特徴と技術者の活躍の場
③ 技術者のあり方、技術士挑戦の経験を踏まえた「誇り高い技術者になろう」とのメッセージ
④ 継続的な研鑽の勧め

まとめとして、「学生は企業の中で技術者がどんな仕事をしているか知りたがっている。ベテラン技術者としては、経験を踏まえリクルーターでは出来ない話を提供する事が肝要。機会を捉えて技術者への勧めを語りましょう。」と締めくくった。